


 書評

Theodore A. Stern, 他編集／兼子直, 福西勇夫監訳 MGH「心の問題」診療ガイド

堀川直史

本書は、Massachusetts General Hospital (MGH) の Stern TA らが編集し、主に MGH の医師たちによって執筆された「The MGH Guide to Psychiatry in Primary Care」(1998 年) の全訳である。

本書は、原書が「プライマリケアにおける精神医学ガイド」と名づけられているように、本来は米国のプライマリケア医のために書かれたものであり、多くの章が精神科医と他科の医師の連名で執筆されている。このようなプライマリケアにおける精神医学の充実が、現在の日本の医療においても、新卒後研修制度で精神医学が必修科目とされたことからわかるように、もっとも重要な課題のひとつであるといえるであろう。

本書の特徴は、多彩な問題が網羅的に取り上げられていることである。章の数は 78 に達し、その中には、例えば「うつ病患者へのアプローチ」や「不安を抱く患者へのアプローチ」などのような比較的一般的なテーマから、「人生の悲嘆に暮れる患者へのアプローチ」や「暴力的な患者へのアプローチ」、さらには「著名人患者へのアプローチ」まで多くの問題が含まれている。

各章の記載は実際の、具体的で、きわめて要領よくまとめられている。フローチャート、チェックリストなどの表が多用されていることも読者の理解を助ける。

このような実際の具体的な知識は、プライマリケア医にとってばかりではなく、精神科リエゾンサービスにおいても同様に非常に重要である。例えば、身体疾患患者に向精神薬を処方

する時を考えると、精神科医は、向精神薬と一般治療薬との相互作用、向精神薬が身体疾患に与える影響、身体疾患の際の向精神薬の薬物動態と薬力学的特徴の変化などに関する知識を身につけていなければならない。これらは本書に詳しく記載されている。別の例をあげると、自殺に関する章では、精神医学の一般的な知識のまとめに続いて、身体疾患患者における自殺の危険因子、精神疾患の診断と対応、さらにベッドサイドでの質問の具体的な実例まで詳しく記載されている。

本書は約 700 頁の大部な本であるが、各章は独立しているため、通読する必要はない。目次から、現在自分が知りたい事柄に関連する章を探し、そこを読むという読み方ができる。

本書は、プライマリケア医や精神医学に関心を持つ他科の医師にとって非常に有用であろう。そればかりではなく、特に精神医学リエゾンサービスにかかわる機会の多い精神科医にも同様に有用である。リエゾン精神医学の経験の少ない精神科医にとっては診療のよい指針となり、十分な経験を積んだリエゾン精神科医も本書の詳しい記載から何らかの新しい知識を得ることができるであろう。本書は、ポケットに入れたり、持ち歩いたりすることはできないが、身近に置き、必要に応じて参照すべき貴重な本のひとつである。

(東京女子医科大学神経精神科)

● A5 変 728 頁 2002 本体 8,600 円 メディカル・サイエンス・インターナショナル刊